

<p>個 別 事 業 名</p>	<p>(2) 小集団保育(プレ保育園)</p>
<p>事業の趣旨・目的</p>	<p>中芸地区は県東部に位置し雇用機会にも決して恵まれた環境とはいえず、低所得者層が多い地域である。特に中芸地区の2町は、県内同規模町と比較して8%程の労働人口に占める一人当たりの総所得金額が低い。親自身の育ってきた養育環境に問題があり、基本的な生活リズムの獲得ができないなど家庭内での子育てが非常に困難な状況が生まれている。単に、保育するだけでなく保護者に家庭の役割を学ばせ子育ての伝承を行ったり、子どもの持つ特性を理解させ具体的な支援方法を提供することが必要。このため、子ども・子育て支援新制度の小規模保育事業では対象にならない、制度の隙間を埋める事業として、集団生活に不安のある子ども、発達が緩やかな子ども、保育所等で加配がついている子ども等を対象に、できるだけ家庭に近い環境の中で、発達障害等に関する知識を有する専門職員による療育の手法も取り入れた支援を行い、基本的な生活リズムの獲得や集団生活へつなげるための体験等をさせる。例えば、行動を促す言葉かけの方法や視覚支援を用いて、子どもの特性に合わせて工夫した手法で行う。また、昼夜逆転の家庭もあり、家庭に踏み込んだ支援を行う。具体的には、朝、保護者を起こしたり、料理の仕方、子どもとの接し方、親の役割等を保護者に学んでもらう。</p>
<p>先 駆 性</p>	<p>家庭での子育ての役割を小集団保育として担うことで、子どもは基本的な生活習慣や他者との関わり方を学び集団生活への不安を取り除くことが期待できる。育児支援が必要な子どもが4割に達する地域の実情を踏まえ、普通の保育所と異なる保育として、保護者自身の「育自」と「育児」の両面での支援を行い、子どもと共に育ちあう他の自治体では取り組んでいない先駆的事业を行う。</p>
<p>実 施 方 法</p>	<p>【対象者の選定方法】 中芸地区では新生児の全戸訪問を行い、乳児健診、各種教室、巡回支援事業等を通じて全ての子どもの発達状況の把握ができており、中芸広域連合職員やNPO法人がケースに応じてスムーズな利用を促していく。</p>
<p>実 施 の 流 れ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 巡回支援専門員整備事業や相談支援事業にて対象者把握 2. 子どもの特性に合わせたプレ保育園の実施 3. 3カ月程度毎に継続支援の必要性を判断 4. プレ保育園終了後は、各町村の保育所等へ入所又は個別療育等へ移行
<p>所 要 見 込 額</p>	<p>7,464,000 円</p>